

# 神戸〈ゆうゆうの里〉入居者インタビュー

## 「それぞれの楽しみを満喫できるのも、 お互いの協力と感謝があってこそ」

戸田 文章様 (70歳)  
久仁子様 (70歳)

### 現役時代からボランティア

**文章様** 転勤族で国内外合わせて15回、引越しました。子供が小さいうちは家族揃って引っ越したので、子供達にはかわいそうな思いをさせてしまったと思っています。反面、いろいろなところに住んだので環境に慣れることが苦にならず、どこでもやっていける自信ができました。また国内外で仕事をして思ったことは、「これから日本は少子高齢化が進み外国人が日本で働くようになる。だから外国の人に日本のことを知ってもらい理解してもらいたい。そのためには日本語も知ってもらえればベター。」ということです。それで日本語教師のボランティアをしようと決め、トライアルで教えました。これがボランティアをはじめたきっかけです。外国の人達が日本語を学び理解できれば交流も深まり、広い意味で国際平和にもつながる。この気持ちは今も変わりません。



「あ、うん」の呼吸のご夫妻です

### 主人のボランティアを応援したい

**久仁子様** 主人は退職後、本格的に日本語教師になるため410時間の講座を受講しました。今は、週1回日本語教室で、ベトナム、インドネシア、中国の人達を教えるボランティアを続けています。また、海外でも喜んでもらえるよう、そば打ちやうどん打ちも覚えました。私も以前、カンボジアに学校を作る目的で、中古品、不用品を集めて売っているセカンドハントというところで、値札付けと販売をするボランティアに携わっていました。それで主人の頑張りがよくわかり、主人を応援したい、また働きながら頑張っている人達も応援したいと思い、教室に手作りのお菓子を差し入れています。毎週、13~16人分を準備し作っています。生徒さん達が楽しみにしてくれているようで、他の日より出席率が良いと聞くと嬉しいものです。また主人が毎月1回回会に行く時にも作っています。「みんながお菓子を待っているよ」と言われると、また作ろうと励みになります。

### 好きなことができるのも妻のおかげ

**文章様** 現役時代は大病もしましたが、入居したので今は健康のことはあまり心配していません。今年からシルバーカレッジに、妻の入学に一年遅れて通い始めました。カレッジに通う他、日本語ボランティア、そば打ち、陶芸、写真、俳句、カラオケ、そして時には旅行と忙しい日々を送っています。最近、自分の生きてきた痕跡、いわば人生の落書きを残したい、というわがままな欲求を少しばかり満たしたい思いで、「ふみあき写俳集」を作成しました。(写俳とは写真と俳句を一緒にしたもの) 好きにさせてくれた女房に感謝です。また一緒にテレビを見て笑ってくれていると本当にありがたい。夫婦はつかず離れず、がいいなあと思います。年をとって大事なものは、「きょういくときょうよう⇒今日行くところがある、今日用事がある」です。だからできるだけ外に出かけ、現役時代とは違う人達と出会ってどんどん刺激を受けるようにしていきたいと思っています。なお、「ふみあき写俳集」は図書室にも置かせてもらいました。



写俳集

### 生活リズムに違いがあってもうまくやるコツ

**久仁子様** 以前から通いたかったシルバーカレッジ。入居してから近くなったので、早速昨年から入学しています。園芸コースに籍を置いています。まさか種から作るとは思わなかったし、猛暑の夏、水やりも大変です。けれどとてもおもしろい。毎週3~5日は授業や委員会、クラブ活動に参加しています。夫婦お互い忙しいうえ、主人と私は起きる時間、活動する時間、活動する内容、そして交流のある人達もバラバラです。でも主人は食事作りの協力をしてくれますし、私は主人の友人が来られた時歓待します。またお得な映画館を見つけたので、時々主人とふたりで見に行きます。上手に時間配分をして、好きなことができるようにお互い邪魔はしない。好きなことは別々にしていても、たまに同じことを楽しむ。今のそういう暮らしがとても居心地が良いんです。